

遠藤麻理さんに聞く お能のたのしみ

この7月に「遠藤麻理の能楽入門」を体験した遠藤さんに感想を聞いてみました。

Q1 筋肉痛もも。

になりましたよ、

すごく難しかったです。立て膝座りからスッと立つとか、摺り足で歩くとか、簡単そうでもまったくできなかったんです。筋肉痛になりましたよ、もも。

静かな動きなんですけど、腹筋も体幹も鍛えられると思います。姿勢も良くなりますね。

感想は？
能楽を体験してみた

Q2 いつも未熟者。

能楽入門で学んだことは？

「初心忘るべからず」とは世阿弥の言葉。何事も始めたときの気持ちを忘れちゃいけないぞっていう意味だと思っていたんですが、世阿弥の解釈は違ったんです。芸に完成はなく自分がいつも未熟者であることを忘れるな、という解釈で、それは現代にも通じる教えだと思いました。

Q3 昼ドラみたいにドロドロで好きです。

「安宅」以外に好きな演目は？

「葵上(あおいのうえ)」とか「鉄輪(かなわ)」は本当に昼ドラみたいにドロドロで好きです。恨みを残して死んだ人が出てきて呪うみたい。見終わった後は「よかったなあ」と思って会場を後にしますよね。笑

Q4 何百万 きっと。

こんな見方もおすすめ

装束がとっても綺麗なんです。西陣織とかで作られているので何百万円もしますよね、きっと。「何百万か〜」としてみるのも面白いと思います。能面なんかは江戸時代のもので使われていることもあります。お能は「ちゃんと見なきゃいけない」ものではなく、なんとなく雰囲気を楽しむだけでもいいと思いますよ。



お、能

能楽にあたらしい発見を



チケット購入方法は3つ! どれも手続きカンタンです!

りゅーとびあオンライン・チケット
https://piagettii.e-get.jp/ryutopia/pt/
アクセスはこちらから▶



りゅーとびあ2F
インフォメーションカウンター
※11:00~19:00 / 休館日除く

りゅーとびあチケット専用ダイヤル
025-224-5521
※11:00~19:00 / 休館日除く

ご来場
お待ちしております!!



安宅

観世流特別公演
〔日本全国 能楽キャラバン!〕

令和3年 12月19日(日) 13:00開演(開場12:30)
りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館 能楽堂
狂言「鬼瓦」野村太一郎 能「安宅 勳進帳・瀧流之伝」山階彌右衛門

【チケット料金】S席7,000円 A席6,000円 B席4,000円 U25[B席]2,000円※
※公演時25歳以下の方対象(小学生以上)。ご入場時に年齢がわかるものをご提示ください。

能楽キャラバン(観世・宝生※公演)セット券 S席11,000円 A席9,500円
セット券は12/18(土)までの販売です。
※1/8(土)【日本全国 能楽キャラバン!】宝生流特別公演 ~高砂~

この公演は国および新潟県、新潟市のガイドラインに基づき、客席制限は行わずに開催いたします。

【主催】公益社団法人能楽協会 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
【お問い合わせ】りゅーとびあチケット専用ダイヤル:025-224-5521 (11:00~19:00 / 休館日除く)

文化庁 大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業

今回のヒト
遠藤麻理さん
ラジオパーソナリティやフリーアナウンサーとして活躍する遠藤麻理さん。7月にりゅーとびあで開催した「能楽入門」では、ご自身でも能楽の世界を体験されました。



静かな世界のなかにある、本質を見る

もともとお能が好きだったんです。日本の伝統芸能のなかでも、私はお能の世界と相性がいいんだと思います。初めて見たときは謡の人がすごくかっこよくて、その人ばかり見ていたんですよ。顔も、仕草も、もうすべてが。私はそこからお能の世界に引き込まれていきました。

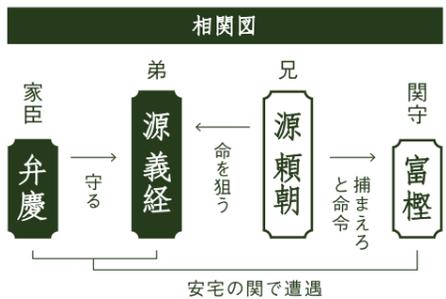
お能って演目自体もドロドロのものが多いじゃないですか。舞台上はすごく静かな世界なんですけども、やっていることはとんでもないこと。そのギャップもまた好きなんです。

今は情報過多の時代ですけど、お能の舞台には情報が少ないんです。動きは静かだし、能面をつけていれば表情も変わりません。物事の本質や言葉の奥にあるものを見るところか、想像力も養われますよね。7月に山階彌右衛門先生と一緒した「能楽入門」では、私も実際にお能を体験させてもらいました。動きはすごく難しいんですけど、一つひとつの所作が丁寧になって、気持ちも安定してくる。お能を見ているときも、同じように心が安定するんですよ。そんなところにも、お能には現代にも通ずる美や精神があるのだと思います。

兄に狙われ、命がけの逃亡劇。 サスペンス？...いっせ、お能です。

【イントロダクション】～日本史のカリスマ、弁慶と義経が登場！～

山伏役の出演者総勢10人の大迫力。息もつかせぬストーリー展開。次々に立ち現れる舞と謡。——数あるお能の中でも“大曲”のひとつに数えられ、りゅーとびあでも17年ぶりとなる能「安宅」が上演されます。主役は、日本史でヒーロー的存在の弁慶と義経。固い絆に結ばれた二人が力を合わせ、絶体絶命のピンチをどのように切り抜けるのか。見どころ満載の能「安宅」を、遠藤麻理さんと一緒に紹介します。



17年ぶりの上演！
これを逃すと
もう見られないかも



八百キロの逃避行

能「安宅」は、弁慶と義経の都落ちの物語。兄・頼朝と不仲になった義経は、弁慶ら家臣を連れて奥州平泉を目指して旅立ちますが、加賀の国“安宅の関”（現在の石川県小松市）で足止めされてしまいます。冒頭の謡によると、数ヵ月かけて都から安宅まで移動したようです。

時系列で物語が進むから分かりやすい！



平家討伐で功績を上げながら、追われる身となった義経。弁慶らとともに山伏に変装して逃げますが、安宅の関で関守・富樫の取り調べが始まります。それもそのはず、頼朝から「偽山伏の一行を捕縛せよ！」との命令が各所に出されていたのです。なんとしても関所を通りたい義経らと富樫のスリルに満ちた攻防。ここで弁慶がキラキラの心理戦を展開します。怪力無双で知られた弁慶は、頭脳明晰でもありました！

弁慶・義経、大捜査線 安宅の関を封鎖せよ

弁慶 vs 富樫の心理戦

① 本物の勸進帳のように読み上げた

関所を通るため弁慶は「東大寺再建の寄付を募る山伏の一行だ」とウソをつきます。怪しんだ富樫は「それなら趣意が書いた勸進帳を持っているはず」と迫ると、弁慶は手元の巻物をまるで本物の勸進帳のように朗々と読み上げたのです。この場面は謡と鼓のせめぎ合いもおもしろく、ハイライトのひとつでもあります。



弁慶と富樫のせめぎ合いにドキドキです！

② とつさの機転で義経を打つ弁慶

一難去ってまた一難。勸進帳を読み上げた弁慶の気迫に富樫はいったん通行を許しますが、今度は強力（従者）に変装した義経を呼び止めます。「そこの者止まれ。義経に似ている」。そこで弁慶はまたも機転を利かせ、「お前のせいで疑われた！」と義経を杖で打ち据えたのです。本物の主君ならば家臣が手をあげるはずもない…。富樫は再び通行を許します。

③ ラスボス富樫と酒を酌み交わす

関所から離れたところで非礼を詫げる弁慶。逆に義経は褒め称え、一同涙を流します。そこへ再び富樫が！もはやこれまでと思ったら、富樫は先ほどのお詫びに酒を持ってきたというではありませんか。弁慶は最後まで油断せず座興に延年の舞を舞い、別れを告げて奥州へ落ち延びていくのでした。

TOPIC

男気あふれる歌舞伎版

歌舞伎の「勸進帳」では、富樫が「義経一行と知りつつ男の情けで通した」となっています。頼朝に知られば切腹ものですが、富樫の心情を弁慶も察して酒を酌み交わすあたり、男のロマンを感じます。

タモリさんの勸進帳

故・赤塚不二夫さんの弔辞をタモリさんが白紙で読んだのは有名な話。約8分間に及び朗々と読み上げた様子は話題となりました。ちなみにタモリさんのマネージャーの名前が「トガシ」だったというオチも付いています。

＜出演者ご紹介＞

世阿弥の子孫



やましなやえもん
山階彌右衛門さん

能を大成した世阿弥の血を引くすごい方。今回は能面をかけない直面で弁慶を演じる。

スーパード小学生



しみずよしひさ
清水義久くん

平成生まれの能楽師。子方ならではの華を持ち、数々の能公演で絶賛される。義経を演じる。

イケメン狂言師



のむらたいちろう
野村太一郎さん

次代を担う狂言師のひとり。吉本興業と契約しマルチに活躍中。狂言「鬼瓦」でシテを演じる。



【日本全国 能楽キャラバン！】

観世流特別公演

あたか
～安宅～

12月19日(日)13:00開演

りゅーとびあ 能楽堂

詳しくは裏表紙をご確認ください